

複合的な課題を有する空き地についての活用事例づくり (瀬戸内市移住交流促進協議会)

- 地権者調査及び対象空き地の整地を行い、多様な主体による利活用のアイデアについて意見交換を通じて、所有者が不明な空き地等の利活用に向けた手法や方向性等を整理、検討
- 本調査の知見を活かして、瀬戸内市空き地バンク(遊休地の情報提供)の創設、瀬戸内市移住交流促進協議会による利活用できる遊休地の確保等の検討を進める

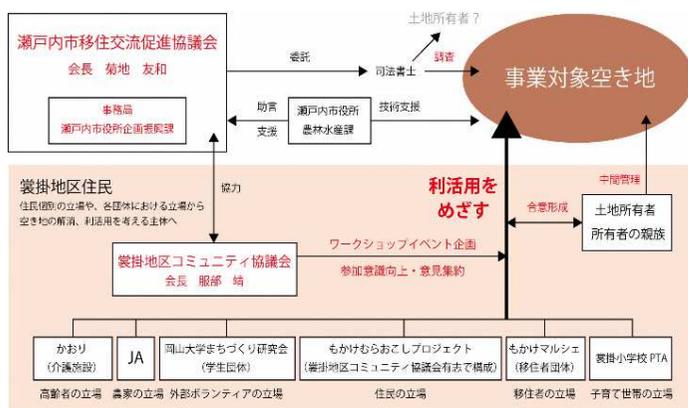
背景・課題

裳掛地区コミュニティ協議会を中心にむらおこし活動を展開、空き家整備や移住者受入れ等を行っており、地域活力の維持を図るため、所有者が不明な空き地、排水不良や無灌漑等の農地等の利活用を検討することが必要。

調査目的

市内にある空き地のうち、利活用を妨げる悪条件が多い場所を対象に管理や利活用の方法を検討・実証することで、市内の同様な空き地の利活用を促進するための知見を得ることを目的とする。

主な事業内容・スキーム



モデル調査の成果

地権者調査により、各筆の実質的な管理者の把握ができ、対象空き地の92.9%にあたる262平米について、調査(調査に必要な整地含む)に対する承諾が得られた。対象空き地の整地により、雑草等に覆われて把握ができなかった空き地及び空き地周辺の状況や歴史的経緯を把握することができ、乾地化と活用を目指す対象地を定めることができた。一部の対象地については乾地化に向けた調査の一環として盛り土(30~50cm程度)を実施した。

乾地の活用を検討するワークショップは、地域住民と岡山大学まちづくり研究会のメンバーなど50名弱が参加し、それぞれの立場から活用の方向性について意見交換が行われ、外部へも売れる作物の栽培、農作業体験、子ども向けイベント(例:「青空」読み聞かせ)、水生植物の栽培等、様々なアイデアが共有された。また、意見交換後には活用方法の検討の一環として映画上映会を行った。

中長期的な展望として、本調査の知見を活かして、遊休地の情報提供(瀬戸内市空き地バンク)や瀬戸内市移住交流促進協議会による利活用できる遊休地の確保等の検討を進めていく。



対象空き地の整地前(左写真)/後(右写真)



ワークショップの様子

①地権者調査

・対象となる空き地の地権者リスト(26名)を作成し、集落の行政委員の協力のもと、地権者への連絡を行い、土地の利用についての意向確認を実施。

②対象空き地の整地(地権者の承諾を得た空き地が対象)

・草刈り、水路の探索と復元を通じて、空き地の整地を行った。

③乾地の活用を検討するワークショップの実施

・整地した土地のうち、地表が乾地化し、地権者の承諾が得られる土地について活用方法を検討するワークショップを実施。